

令和5年(行コ)第56号環境影響評価書確定通知取消請求控訴事件  
 控訴人 鈴木陸郎 外44名  
 被控訴人 国

## 証拠説明書

2023年(令和5年)9月22日

東京高等裁判所第10民事部ニホ2係 御中

控訴人ら訴訟代理人  
 弁護士 小島 延 夫



甲号証	枝番	標目 (原本・写しの別)	作成 年月日	作成者	立証趣旨
320		「世界の週ごとの異常気象・ 全球異常気象監視速報 (No:1215)・対象期間2023 年8月9日～8月15日」	写 2023年8月 15日	気象庁	2023年の夏、ロシア北西部～ヨーロッパ北部、米国南部～南米中部、オーストラリア中部～東部と、北半球・南半球を問わず高温が発生していることが報告されていること、 冬季であるオーストラリアにおいて、3週連続で異常高温が観測されていること 米国南部～メキシコの高温は2023年6月中旬から8月中旬まで8週連続の異常高温であること
321		世界の週ごとの異常気象・全 球異常気象監視速報 (No:1219)・対象期間2023 年9月6日～9月12日	写 2023年9月 12日	気象庁	2023年の夏、東シベリア南部～中国中部、ロシア北西部～ヨーロッパ北部、米国南部～南米中部、オーストラリア中部～東部と、北半球・南半球を問わず高温が発生していることが報告されていること
322		世界の週ごとの異常気象 全球異常気象監視速報 (No:1213)・対象期間2023 年7月26日～8月1日	写 2023年8月 1日	気象庁	2023年の夏、東シベリア南部～中国中部、ロシア北西部～ヨーロッパ北部、米国南部～南米中部、オーストラリア中部～東部と、北半球・南半球を問わず高温が発生していることが報告されていること 7月26日にはアリゾナ州フェニックスで日平均気温43℃(平年値:約35℃)、日最高気温46℃という猛烈な高温が観測されていること
323		NHK解説記事・土屋敏之 解説委員「“地球沸騰”の時 代！？観測史上最高気温の 7月に」	写 2023年8月 3日	NHK	WMO(世界気象機関)などは令和5年7月27日、同年7月の世界の平均気温は観測史上最高の水準となる見込みである旨を発表し、国連のグテーレス事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、“地球沸騰”の時代が到来した」と警鐘を鳴らしたこと

324	世界気象機関(WMO)年次報告書:気候変動は進行し続けている(2023年4月21日付 WMO プレスリリース・日本語訳)	写し	2023年5月24日	国連広報センター	2023年5月17日に公表された「2022年地球気候の現状に関するWMO報告書」によれば、世界の平均気温は、2022年に、1850-1900年の平均気温を1.15℃(1.02から1.28℃)上回ったことが示されていること、2015-2022年は、1850年に遡る温度計による記録の中で、最も温暖な8年間となり、2022年は、冷却効果を持つラニーニャ現象が3年連続して発生する「トリプルディップ」(これは過去50年で3回しか起きていない)があったにもかかわらず、史上5番目または6番目に暖かい年であったこと
325	REUTERS「昨夏の欧州熱波、6万人超が死亡か 地中海諸国で顕著」	写し	2023年7月11日	REUTERS	令和4年夏のヨーロッパでの異常高温(原審原告ら準備書面25・12頁以下)では、5月末から9月初めにかけて6万1600人超が死亡したとの調査結果も公表されていること
326	毎日新聞 2023/6/8記事「NY大気汚染「1960年代以降で最悪」カナダ山火事の煙が到達」	写し	2023年6月8日	毎日新聞	カナダでは5月に大規模な山火事が発生し、1万8000人以上が避難を余儀なくされ、その煙はアメリカ・ニューヨークまで及び「1960年代以降で最悪」の大気汚染をもたらしていること
327	朝日新聞デジタル2023年8月20日「約3万5千人に避難命令 カナダ西部「史上最悪の山火事シーズン」	写し	2023年8月20日	朝日新聞	2023年の6月以降も、カナダでは山火事が相次ぎ、8月19日にはブリティッシュコロンビア州政府が約3万5000人に避難命令を発令し、州は「史上最悪の山火事シーズン」であると危機感を表明していること
328	NHK「大西洋 スペイン領カナリア諸島で山火事 1万2000人以上避難」	写し	2023年8月20日	NHK	スペイン領カナリア諸島でも大規模な山火事により壊滅的な被害がもたらされ1万2000人以上が避難を余儀なくされていること
329	NHK「ハワイ マウイ島 山火事1週間 死者は106人に 被害拡大の背景は」	写し	2023年8月20日	NHK	ハワイ・マウイ島でも山火事が発生し、同年8月15日現在で106名の死亡が確認され、これはアメリカで発生した過去100年に発生した山火事の中では最も多い死者数であること
330	気象庁「春(3~5月)の天候」	写し	令和5年6月1日	気象庁	令和5年春(3~5月)については、平均気温が全国的に高く、「北・東日本では1946年の統計開始以降、春として1位の高温」となったこと
331	気象庁「6月の天候」	写し	令和5年7月3日	気象庁	2023年6月、7月、8月についても北・東日本で「かなり高い」高温水準、西日本で「高い」水準が続き、北日本ではやはり1946年の統計開始以降1位の高温が観測されたこと
332	気象庁「7月の天候」	写し	令和5年8月1日	気象庁	2023年6月、7月、8月についても北・東日本で「かなり高い」高温水準、西日本で「高い」水準が続き、北日本ではやはり1946年の統計開始以降1位の高温が観測されたこと
333	気象庁「夏(6~8月)の天候」	写し	令和5年9月1日	気象庁	2023年6月、7月、8月についても北・東日本で「かなり高い」高温水準、西日本で「高い」水準が続き、北日本ではやはり1946年の統計開始以降1位の高温が観測されたこと 日本の平均気温は1898年以降で夏として最も高くなったこと

334	環境省「アラート発表回数(2021年)」	写し	2021年 10月27日	環境省	令和3年度は613回の熱中症警戒アラートが出されたこと
335	環境省「アラート発表回数(2022年)」	写し	2022年 10月27日	環境省	令和4年度は889回の熱中症警戒アラートが出されたこと
336	全国の熱中症による救急搬送状況 令和5年9月4日～9月10日(速報値)	写し	2023年 9月10日	総務省消防庁	令和5年は、5月1日以降9月10日までに85,149人が、熱中症により救急搬送され、令和4年を大幅に上回り、熱中症による救急搬送者数の調査開始以降2番目に多い水準となっていること
337	令和5年夏の大雨および記録的な高温に地球温暖化が与えた影響に関する研究に取り組んでいます。—イベント・アトリビューションによる速報—	写し	2023年 9月19日	東京大学・気象庁気象研究所	2023年7月から8月に発生した記録的な高温イベントの発生確率は、地球温暖化の影響を取り除かなくても、およそ60年に1度の非常に稀な高温イベントであったこと、 地球温暖化の影響のみを取り除いた場合の実験結果からは、今回の高温イベントの発生確率がほぼ0%、つまり、様々な偶然が重なったとしても、人為起源の地球温暖化による気温の底上げがなければ起こり得なかったこと 人為起源の地球温暖化により日本全国の線状降水帯の総数が約1.5倍に増加していたと見積もられ、特に九州地方で増加が顕著で、令和5年7月9日から10日に発生した九州北部の大雨を対象に量的EA手法を適用した結果、この時期の総雨量が、地球温暖化がなかったと仮定した場合と比べて16%増加していたことが判明したこと
338	海面水温の長期変化傾向(全球平均)	写し	令和5年 2月15日	気象庁	人為的な温室効果ガスの排出による温度上昇は陸域のみならず、海洋においても発生していること、1891年から2022年までの期間において海面水温は100年あたり0.60℃の上昇となっていること
339	「地球温暖化が引き起こす海水温上昇と漁業の関係～日本海でサワラ漁獲量増、スルメイカ激減～」(水産界2020年3月号)	写し	2020年 3月	大日本水産会	日本海では1.5℃、太平洋では0.9℃と、日本近海の海水温は、世界でも特に温度上昇が顕著であること
340	BBC「海水温が史上最高を更新、地球環境に厳しい影響」2023年8月5日	写し	2023年 8月5日	BBC	令和5年8月には、地球の平均海水温が20.96℃に達したことが欧州連合コペルニクス気候変動サービスにより報告され、これは史上最高の水温であること
341	三陸沖の海洋内部の水温が記録的に高くなっています	写し	2023年 8月9日	気象庁	日本でも令和4年秋以降、海洋内部の水温が高くなっていることが判明しており、令和5年7月に実施された調査では平年より約10℃高い記録的な高温が確認されたこと
342	日別海面水温 2023年8月10日	写し	2023年 8月11日	気象庁	2023年8月10日には、日本海では、福井県北部から、青森県の津軽半島南部まで、相当広範な沿岸部が、海面水温が30℃以上となっていること
343	日別海面水温(平年差) 2023年8月10日	写し	2023年 8月11日	気象庁	2023年8月10日には、北海道南部から富山県までの水温の平年差が5℃以上となっていること

344	気象庁「海洋による二酸化炭素の吸収・放出の分布」 2023/09/11確認	写し	2023年 9月11日 確認	気象庁	海洋は二酸化炭素の吸収・放出作用があるところ、水温が高くなることで海洋の二酸化炭素の吸収能力が低下することが予測されていること、地球温暖化により海が温まり、それによりさらに地球温暖化が加速するという負の連鎖が発生していること
345	気象庁「大雨や猛暑日など(極端現象)のこれまでの変化」2023/09/21確認	写し	2023年 9月21日 確認	気象庁	観測データからも、日本において、1時間降水量80mm以上、3時間降水量150mm以上、日降水量300mm以上など強度の強い雨の頻度は、1980年頃と比較して、既におおむね2倍程度増加しているといえること
346	気象庁「令和5年の実績～線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ～」 令和5年9月1日時点	写し	2023年 9月1日	気象庁	令和4年6月1日から気象庁は線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを実施していること 令和5年度には、3月から8月までの間に、線状降水帯が18回発生しており、3時間降水量最大値が顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準である150mmを超え、地域によって200mmを超えるなど河川氾濫、浸水被害をもたらす大雨が観測されたこと
347	気象庁「梅雨前線による大雨」令和5年8月8日	写し	2023年 8月8日	気象庁	令和5年6月28日から同年7月16日にかけては梅雨前線が日本に停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で前線の活動が活発になり、各地に大雨被害をもたらしたこと 特に九州北部は、大分県日田市で1212mm(例年比179%)、佐賀県鳥栖市で1209mm(例年比235%)、福岡県添田町1202mm(例年比252%)など顕著な期間降水量が確認されたこと
348	国土交通省「6月29日からの大雨に関する被害状況等について(第28報)」令和5年7月28日	写し	2023年 7月28日	国土交通省	令和5年6月28日から同年7月16日までの期間の大雨により41水系118河川が氾濫し、全国で321件の土砂災害が確認されたほか、福岡県、山口県を中心に2211棟の床上浸水、5268件の床下浸水の住宅被害が発生したこと
349	気象庁「梅雨前線及び台風第2号による大雨」令和5年6月23日	写し	2023年 6月23日	気象庁	令和5年6月1日から同月3日にかけては、梅雨前線が本州付近に停滞し、そこに、台風2号の非常に暖かく湿った空気が流れ込んだことで前線の活動が活発化し、高知県、和歌山県、奈良県、三重県、愛知県、静岡県等の6県で線状降水帯が発生し、24時間降水量として観測史上1位を記録した地点は静岡県を中心に23地点あったこと
350	国土交通省「台風第2号及びそれに伴う前線の活発化による大雨による被害状況等について(第3報)」令和5年6月3日	写し	2023年 6月3日	国土交通省	同月3日には東海道新幹線が運休となった他、在来線18事業者40路線が運休となり、航空についても関西国際空港において約980名がターミナルビルに滞留する事態が発生したこと
351	国土交通省「令和5年台風第6号に関する被害状況等について(第15報)」令和5年8月14日	写し	2023年 8月14日	国土交通省	台風6号は、沖縄を中心に大きな被害をもたらし、九州南部・奄美地方、沖縄地方で平年比2～4倍の降水量が確認されたほか、沖縄地方では最大瞬間風速50mを超える8月の観測史上1位の風速を記録するなど台風の激甚化が現実化したこと
352	ウェザーニューズ「台風6号が熱帯低気圧に 複雑な経路をたどり影響が長かった」 令和5年8月11日	写し	2023年 8月11日	ウェザーニューズ	台風6号は、14日間にわたり台風として存在し、台風2号と並んで歴代15位の長さだったこと

353	沖縄タイムスプラス「台風6号影響 観光客、延泊に停電で疲労」11階の客室からキャリーバッグを持って階段を…」令和5年8月11日	写し	2023年 8月11日	沖縄タイムス	台風6号の影響で連日、航空の運休が相次ぎ、国内線だけで2183便が欠航し、33万4703人に影響が生じたこと
354	国土交通省「令和5年台風第7号による被害状況等について(第6報)」令和5年8月17日	写し	2023年 8月17日	国土交通省	台風7号は各地のインフラを寸断したこと
355	国土交通省「令和5年台風第7号による大雨に関する河川・砂防の被害状況について」令和5年8月15日	写し	2023年 8月15日	国土交通省	台風7号は、雨量基準超過等により高速道路では関西を中心に16路線71区間が通行止めとなったこと
356	読売新聞オンライン「台風後になぜ新幹線大混乱、折り返し運転・列車ホテル・お盆…専門家「きめ細かい情報発信を」」2023/08/20	写し	2023年 8月20日	読売新聞オンライン	山陽・東海道新幹線は15日に計画運休、16日は再開するも静岡県内での大雨を契機に全線で運転見合わせとなり、帰省ラッシュも重なったことで台風の通過後、17日午前中まで、ダイヤが乱れるなどしたこと
357	ウェザーニュース「リビア東部で大洪水 24時間で一年間の降水量を超える記録的な大雨に」2023/09/13	写し	2023年 9月13日	ウェザーニュース	アフリカ北部に位置するリビアでは、2023年9月10日から11日にかけて東部を大雨が襲ったこと、北東部の都市アル・バイダ(Al-Bayda)では24時間雨量が史上最高の414.1mmを観測。もともと普段からの雨量が少ない地域であるため、この雨量は年間降水量の2倍近くである。この記録的な大雨の結果、リビア東部では、老朽化した2つのダムが決壊して、沿岸部の都市デルナを多量の水が襲い、多数の死者・行方不明者が出たこと この大雨は、地中海を進んできた「Storm Daniel」と呼ばれる発達した低気圧によるものであり、「Storm Daniel」は、9月はじめに地中海を挟んだ向こう側のギリシャで発生した。9月5日～6日にかけてギリシャやブルガリア、トルコなどで記録的な大雨を降らせた後、地中海を南下してリビア北部の沿岸部に達したこと
358	BBC「「想像を絶する光景」リビア洪水の被災者、「その時」を語る」2023/09/15	写し	2023年 9月15日	BBC	この大雨によって、リビア東部で発生した洪水で、同国の国連大使は14日までに「約6000人の死亡が確認され、数千人が行方不明だ」と述べ、リビアの赤新月社(イスラム圏の赤十字社)関係者は、死者は約1万人に上るとし、被害が特に大きかったデルナの市長は2万人が死亡した可能性があるとしていること BBCの取材に対し、23歳の学生は、7階建ての建物の屋上に避難したところ「向かいの3階建てビルの屋上に人々がいるのが見えた。友人家族もいた。みんな携帯電話をたいまつのように振っていた。直後、そのビルが崩壊。暗がりの中、水に飲み込まれた。」「友人家族はまだ見つかっていない。」「洪水が引いた後、弟妹3人全員とビルを脱出できたが、家の前の通りは完全になくなっていた。」「地球が割れたみたいだった」「通りがあった場所には空洞だけが残っていた。」「もう元には戻れないと思う。」「あの通りは私の人生のすべてだった。街の隅々まで知っていた。それがなくなってしまう。」と語ったこと

359	NHK「国際ニュースナビ・ 「雨はやんだのに、こんな恐ろしいことに…」引かない水が奪う命」2022年10月7日	写し	2022年 10月7日	NHK	<p>昨年(2022年)には、パキスタンの国土の3分の1(日本の本州の面積である約22万8000平方キロメートルを上回る)が水没する洪水が発生し、1700人以上が死亡したこと</p> <p>パキスタン南部のシンド州に暮らす男性シャナワズさんの自宅は、8月後半に雨が激しく降る中、突然倒壊し、屋根の無い場所で暮らさざるを得なくなったこと、働いていた農場も水没し、仕事も失うことになったこと</p> <p>昼間は、木陰で暑さをしのぎ、夜は妻と幼い子どもたちとベッドで寝たが、食べるものが足りなくなっていき、飲み水には濁った水が混ざるようになっていったこと、</p> <p>雨で周辺にたまった水は何日たっても引かず、大量に発生する蚊に悩まされたこと、</p> <p>息子のタサワール君が、高熱を出し、体は震え、頭痛や腹痛を訴えるようにもなったこと、</p> <p>病院で診てもらおうとするが、自動車もなくいけない中、どんどん弱っていくタサワール君、「パパ、おなかがすごく痛いよ」抱き上げたタサワール君は、最後にこう言って、息を引き取ったこと</p> <p>パキスタンのシンド州だけで、2022年10月3日時点までで、30万人以上がマラリアに感染、下痢の症状を訴える人は70万人。病気で亡くなった人は345人。国連の担当者は、10月に開かれた記者会見で「死と破壊の第2波が来ている。」と表現したこと</p>
360	ユニセフ(国連児童基金) 「パキスタン洪水、約半年経過 1千万人以上、未だ安全な水が採り用できず「世界水の日」を前にユニセフが警鐘」2023年3月21日 イスラマバード発	写し	2023年 3月21日	日本ユニセフ協会	<p>2023年3月時点でも、パキスタンでは、150万人以上の子どもが重度栄養不良に悩まされている。健全な水へのアクセスもできず苦しんでいる人々は1000万人もいる状態が続いていたこと</p>
361	神奈川県 気候変動への「適応」パンフレット	写し	2023年 7月23日	神奈川県	<p>神奈川県作成の資料でも、横浜の平均気温は100年間に1.9℃上昇しており、対策をとらないと4℃上昇し、種子島と同じくらいになり、猛暑日が40日増加し、熱中症のリスクが高まる。そして、滝のように降る雨の発生が2倍になると予測されている。熱暑による死亡や熱中症のリスク、洪水や土石災害、農業・漁業などで特に重大な影響がみられ、緊急度が高いことが示されていること</p>
362	朝日新聞・コラムニストの眼 「オレンジ色 NYの空 警告されていた災害はすでに」	写し	2023年 6月20日	朝日新聞・この部分の執筆者は、ポール・クルーグマン	<p>アメリカ合衆国の経済学者である、ポール・クルーグマンは、カナダの山火事の影響でニューヨークがひどい大気汚染にさらされた時に、「これが世界の終わり方なのだ」と発言し、大きな気候災害に直面する現実が始まっていること</p>